

2021/7/30

(うとQ世話し 気候変動)

「夏草や兵どもが夢の跡」

や

「祇園精舎の鐘の声

諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色

聖者必衰の理をあらわす

奢れる物久しからず

只、春の夜の夢のごとし」

といわれるように、人間界は生々流転、その定まるところを知らぬのに対し、悠久なる自然界の天地運行は「変わることがない」と思われていたのは今までの話で、今現在は

強烈台風の連続来襲、豪雨水害の多発、猛暑日の連続等に始まり、つい最近身近で経験したのは、例年に比べて早い梅雨明け後、7月中頃の「これからが盛夏本番」と思わせる猛暑日の昼に、何と「夏の終わりを告げ、秋の始まりを知らせる」秋津（赤とんぼ）が群れをなして飛んでいる姿でした。

加えて外は猛暑なのに、室内には涼やかな風が入ってくる、これまた炎熱涼風の併存。

夏と秋が同時スタートの「不可思議」以上に「怪」又は「怪奇」

もはや悠久なる自然界の天地運行すら定かではなくなっている「底知れぬ不吉な予感」気候変動を甘く見てはなるまい。

一線を越えたが為の

「覆水盆に返らず」

「時、既におそし」

となる前に、そのことに気づいて認識転換をし、それに基づく行動を起こして

結果

「雨降って地固まる」

レベルに止め置くことが「後代への責務」

と思う今日この頃でございます。